

# 会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書  
平成27年 3月31日 提出

## 1. 視察概要

会派名	大志会
視察者名	富田文志、関武徳、相澤久義、相澤孝弘、山村康治
視察日	平成26年9月1日から9月3日
視察先	1. 新潟県佐渡市 2. 新潟県黒部市(YKK黒部事業所) 3. 新潟県長岡市
出席者	1. 新潟県佐渡市農林水産課 藤井係長 2. YKK黒部事業所 田原所長、西田総務部長、加藤総務・人事担当課長、勝田総務部顧客管理室長

## 2. 視察内容

視察項目	1. GIAHSの取り組みについて、トキの保護と農業施策について(新潟県佐渡市) 2. 地元企業と行政の連携について(YKK黒部事業所) 3. 市役所新庁舎建設について(新潟県長岡市)
視察内容	<p>1. 現在大崎市において、世界農業遺産登録認定へ向けて鋭意取り組んでいるが、先進事例の佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」の現状と世界農業遺産への理解と認識を深めるため、研修視察を行った。</p> <p>佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」は、平成23年に日本で初めて世界農業遺産に登録され、その後の佐渡の農業にどう生かされているのかなどについて、佐渡市役所藤井係長より説明を受け、意見交換をした。その概要を報告いたします。</p> <p>Q. 大崎市では、蕪栗沼周辺水田と化女沼がラムサール登録湿地に認定され、当時は市民の関心が高かったが、佐渡での世界農業遺産登録後において、市民の意識をどうみているか。</p> <p>A. 平成23年4月に認定を受け、翌年平成24年2月に市民アンケートを行ったが、農家は様々な取り組みの中で生かそうとしているが、一般市民は世界農業遺産登録認定のことは知っていてもほとんどが内容については理解していなかったという結果が出ている。</p> <p>Q. 国内の認定地域との交流や意見交換会などはどうしているのか。</p> <p>A. 全体としては行っていないが、能登とは年1回行っている。</p> <p>Q. 幼小中の教育の場での取り組みはどう進めているのか。</p> <p>A. 生き物調査やトキの生態調査をしながら取り組んでいるが地域差があり、なかなか進まない。</p> <p>Q. 伝統芸能・文化の継承をどう進めているのか。</p> <p>A. それぞれの地域、集落にある団体と連携しながら取り組んでいるが、年に1,000人ぐらいずつ人口が減少している現状なので大変厳しい状況になっている。</p> <p>Q. 「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」の取り組み状況の推移はどうなっているのか。</p> <p>A. GIAHS認定後においても伸び悩んでいる。制度の見直しをしなければならない。</p> <p>Q. 「トキと共生する佐渡の里山」において今後の取り組みは。</p> <p>A. 新たな地域の創造を目指し、佐渡棚田協議会の設立・地域おこし協力隊員の積極的な活用・里親制度と新規就農支援による担い手育成を柱に進めていく。</p> <p>以上のような意見交換内容であったことを報告する。</p> <p>なお、世界農業遺産登録認定にあたっては、市民の理解と認知度が肝要であることを強く感じた。</p> <p>2. 平成27年3月14日北陸新幹線の長野～富山・金沢間開業により、黒部宇奈月温泉駅～東京間が2時間20分で結ばれ、県民挙げて待ち望んでいる。</p> <p>黒部事業所は、ファスナー、AP(建材)、工機(ファスナー、建材をつくる器械を自社製造)3部門があり、国内最大の拠点事業所である。従業員国内外39,000人、ファスナーを中心に71カ国108社、国内17,000人の従業員のうち12,000人がAP部門25事業所で</p>

事業展開している。

工場見学の産業観光化に向けて、富山県石井知事からの依頼でゾーンを整備してYKK Kツアー(YKKビル・工場見学)を企画し、平成 25 年は年間 84,000 人が訪れたという。また、黒部市と連携し、1 回 30 人規模で年間 8 回、YKK、黒部峡鉄道(トロッコ電車)、関西電力、ダム、発電所が企業間連携でツアーを企画している。

朝の通勤による交通混雑解消については、荻生工場はファスナー、AP、工機工場があり、従業員が最も多くいることから、朝社員の時差出勤や近隣に住んでいる地域住民と定期的に話し合いをし、優先順位をつけ道路整備を市に要望し整備されている。また、市や警察等の話し合いで信号等のプログラムをつくり交通混雑解消が図られている。また、工場に放射状に入れるように環境整備が行われている。

観光立市を目指す大崎市として産業観光にも目を向け、YKKAP、一ノ蔵、デリシャスマト、日帰り温泉施設、道の駅等がコラボした、大崎東部日帰り観光ツアーを企画し、地産の消費拡大を目指し、また、国道 4 号の交通渋滞問題解決には新幹線東側の多田川に橋を架ける必要があることを痛感した。

3. 新潟県長岡市は平成 24 年に市民協働・交流の場として市役所から成るアオーレ長岡を長岡駅前にオープンさせ、長岡の新しい顔となっている。

なぜ市役所を駅前にという背景は合併により市職員を総合的に本庁機能強化するための集約とまちなかの衰退がある。駅前にあった長岡市厚生会館の老朽化に伴い、市役所の建設に踏み出した。同駅前の 3 カ所に分庁舎を配置して人々の回遊性も図っている。アオーレとは、名称を公募した結果 5,500 点位の中から選定されたもので「会いましょう」を意味する長岡地域の方言で、様々な出会いが生まれるようにという期待が込められているとのことでした。

設計は建築家の隅研吾氏(最近では歌舞伎座で有名。)による。建築費は本体が 131 億円余りで駅前に建設するということに関してはマイカー通勤者への駐車場確保問題などが当初懸念されたが結果として職員の不満はなく、まちなかの回遊性が図られ活性化につながっている。建物は東棟(行政)、西棟(議会、市民活動)、アリーナからなり、その中の中土間は庭のようでもあり、建物中央に挟み込まれるように配置されている。また、木の質感を生かしたデザインが特徴で内装・外装ともに木製のパネルが多用され、温もりが感じられ、壁面や大屋根が強化ガラス張りで建物全体に日差しが入り、それを木製パネルが調光しており、市民が集う、活動拠点としての自遊空間は大変すばらしいものである。

施設の維持管理について聞いたところ、ガラス清掃は2カ月に1回高所作業車を使用している、大屋根の積雪対策に雨水貯留槽から水を流して融雪しているが厳寒期は水量を増やす調整が必要である。このような作業に年間 3 億円程度の維持管理費用を拠出するという事は当初の予想をはるかに超えるもので、担当職員談として、設計家は積雪地の理解度が不足していたと思う、従って開設後 2 年位で一部支障が生じて対応することとなった。

最後に長岡市長が本施設を市役所は職員の仕事をする場というより、市民が自由に使う場所と思ってほしいとの意見を強く主張されて推進してきたことに敬意を表したいと感じた。

他会派との  
合同実施

・無

以上

# 会派広報聴活動報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書  
平成27年 3月31日 提出

## 1. 活動概要

会派名	大志会
会員名	富田文志、関武徳、相澤久義、相澤孝弘、山村康治
活動項目	(1)会派活動報告書作成・配布

## 2. 活動内容

摘要	(1)会派活動報告書作成・配布 ①会派活動報告書(B4版1色刷2ページ)18,000部作成し、新聞折り込みにて配布した。
----	---